地域社会との緊密な連携を築こう

～　学校・家庭・地域と地域学校共働本部・交流館との連携～

豊田市立若園中学校ＰＴＡ

１　学区及び学校の概要

本校は、知立市、安城市に接する豊田市南部に位置している。伊勢湾岸道が近くに通り豊田南インターチェンジがあり、車での移動には大変便利なところである。近隣には田園風景が広がるとともに、トヨタ車体吉原工場をはじめ、様々な規模の事業所が多数存在するなど、豊田市内の産業の様子を端的に表している地域である。学校の構成は、特別支援学級４クラスを含む全１６学級、全校生徒３８８名である。また、令和５年３月に交流館（公民館）と合築され、校舎の一部が交流館と供用されるようになり、地域との連携の拠点として利用されている。

２　研究のねらい

本校では、校訓「みがく」をもとに、今年度から「地域とつなぐ」「学びをつなぐ」「居場所とつなぐ」ことを目指して「自ら考え、判断し、行動する生徒」の育成に努めている。これまで、「地域とつなぐ」視点を広げるために、地域学校共働本部が中心となって、地域のボランティア活動に積極的にかかわれるよう、機会を提供してきた。最近では、地元企業主催事業へのボランティア活動の参加にも広がるなど、地域との連携も深まりつつある。そうした中で、ＰＴＡの活動としてどのように地域との連携を進めていくことができるか、様々な実践を基に検証を進めていきたいと考えている。

３　研究の仮説

地域の関係諸団体（地域学校共働本部、若園交流館等）と連携・協働しながらＰＴＡ活動を推進すれば、地域の中で活躍する心豊かな生徒を育成することができるであろう。

４　研究の方法

ＰＴＡ活動ならびに地域の関係諸団体（地域学校共働本部・若園交流館等）と連携・協働しながら、生徒が活動できるボランティアの場の設定をしたり、ＰＴＡとしての呼びかけを行ったりするなどのかかわりを増やしていく。

５　研究の実践

（１）ＰＴＡ独自の活動「リサイクル活動」

従来、年１回の地域を含めたリサイクル活動を実施してきた。地域からの協力の広がりとともに、限られた期間・回数では、地域やＰＴＡ会員・役員の負担が大きくなってしまう傾向にあったので、２年前よりリサイクルの常設回収場所を設置した。さらに、地域に

も定期的に回覧板等で常設の様子をお知らせし、いつでも持ち込みができるような取組として進めてきた。地域・学校・子ども・保護者の間で、常にリサイクル意識をもつことができるように努めることができたと考えている。

（２）地域コミュニティ会議への参画（交流館の取組とのタイアップ）

若園地区コミュニティ会議のメンバーとして、環境安全部と青少年育成部にＰＴＡ役員が参加している。

ア　水辺の緑回廊事業

環境安全部の取組として、年２回、学校の東を流れる逢妻男川岸壁の緑化活動を展開している。コロナ禍もあり、保護者による取組に縮小したが、継続的に行うことで、地域とともにあるＰＴＡという意識を高められていると考えている。

イ　青少年育成のための企画「星空観察会」

青少年育成部の取組として、地域の方たちとともに生徒の健全育成のため何をするのがよいのか知恵を出し合いながら、取組を展開している。今年度は、地域の講師を招いての星空観察会を計画している。地域を巻き込んでの取組で地域・ＰＴＡが一体となって、子どもの健全育成を担っているという意識が育っていると考えている。

（３）学校との共働「体育祭グラウンド整備（グランドの草取りボランティア）」

体育祭に向けて、グランドの整備を全校挙げて取り組んでいる。ここ数年の課題は、「グランドの草取り」。地域学校共働本部とともに週末に生徒のボランティアを集めて、グランド整備（草取り）を実施した。多くの生徒・保護者が集まり充実した活動ができている。学校の環境整備のために保護者・子ども・学校ができることでお互いに補い合う関係が構築できていると考えている。

６　研究の考察

中学校校舎と交流館の合築に伴い、地域との連携が求められている中で、これまでの取組を見直しつつ、新しい時代での連携の在り方について検討・実践をしてきた。今回は従来の取組を発展させつつ、現代的な取組へどう昇華させていくのかについて、学校や地域学校共働本部、交流館・地域コミュニティ会議との連携で広げられる可能性を見出せたと考えている。

７　成果と今後の課題

連携を築くためには、その連携の要になる組織が必要である。地域と学校の連携に関して、その役割を果たすところが、地域学校共働本部やＰＴＡであると考えている。現在、行政の後押しがある地域学校共働本部については、制度的に整いつつある。そこに、ＰＴＡがどの程度のかかわり合いをもって、どのような取組を展開していくのか、地域の諸団体と意見交換・調整を行いながら進めていく必要があると考えている。